建設経済常任委員会

平成20年9月18日（木曜日）

付議事件

《付託議案》

議案第10号 平成20年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項

議案第16号 旭市土地開発公社定款の変更について

《付託陳情》

陳情第5号 自主共済制度の保険業法適用見直しを求める陳情

陳情第6号 燃料、肥料、飼料、農業資材等の価格高騰に対する緊急対策を求める陳情

出席委員（6名）

委員長	嶋田哲純	副委員長	滑川公英
委員	嶋田茂樹	委員	平野浩
委員	林七巳	委員	平野忠作

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

議長 明智忠直

説明のため出席した者（22名）

副市長	鈴木正美	商工観光課長	神原房雄
農水産課長	堀江隆夫	建設課長	米本壽一
都市整備課長	島田和幸	下水道課長	中野博之
農業委員会 農事務局長 その他担当員	小田雄治 15名		

事務局職員出席者

事務局長 宮本英一

事務局次長 石毛健一

主査 穴澤昭和

開会 午前10時 0分

○委員長（嶋田哲純） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

暑い猛暑も過ぎまして、急に一段と秋らしくなりました。今、旭市にとりまして一番大事な時期ではないかなと思います。特に旭中央病院問題、またアクセス道路問題など、そのほかいろいろあります。きょうは9月定例会の最後の委員会でございます。付託されました議案について、慎重な審議のほどをよろしくお願い申し上げます。

ここで、委員会を開催する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は6名、委員会は成立いたしました。

それでは、建設経済常任委員会を開催いたします。

本日、明智議長にご出席をいただいておりますので、ごあいさつをお願いいたします。

○議長（明智忠直） どうも皆さん、おはようございます。

九州の西のほうでは迷走13号台風が本土沿岸沿いに進行するというような話がありまして、非常に心配な中で、そんな影響で、きょうはちょっとぐずつき模様であります。委員の皆さん方には早朝から大変お忙しいところをご苦労さまでございます。なおまた、執行部の皆さん方も大変ご苦労さまでございます。

きょうは建設経済常任委員会、きのうの公営企業に続きまして、2日目の常任委員会の審議ということでございます。付託された議案は2本、そしてまた陳情が2本ということでございます。どうぞ慎重に審議のほどをよろしくお願いを申し上げまして、簡単でございますが、ごあいさつに代える次第でございます。ご苦労さまでございます。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

議案説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、鈴木副市長よりごあいさつをお願いいたします。

○副市長（鈴木正美） おはようございます。

本日は建設経済常任委員会ということで、委員の皆様には、また議長にはご多忙の中ご出席をいただきまして、大変ご苦労さまでございます。

本日の委員会のほうに執行部のほうからご審議をお願いしておりますのは、議案第10号、平成20年度旭市一般会計補正予算の所管事項、議案第16号、旭市土地開発公社定款の変更、以上の2議案でございます。執行部といたしましても、ご質問に対しまして簡潔な答弁に努めてまいりますので、どうぞよろしくご審議のほどをお願いいたします。

よろしくをお願いいたします。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

なお、報道関係者及び市民より傍聴したい趣旨の申し出がありました。これを許可いたしましたので、ご了承をお願いいたします。

しばらく休憩いたします。

委員の皆さんは、そのままお待ちください。

休憩 午前10時 3分

(傍聴者入室)

再開 午前10時 3分

○委員長（嶋田哲純） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の説明、質疑

○委員長（嶋田哲純） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月5日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第10号、平成20年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第16号、旭市土地開発公社定款の変更についての2議案であります。

これより付託議案の審査を行います。

初めに、議案第10号の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたら、お願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、議案第10号につきまして、農水産課所管事項につきましての補足説明をさせていただきます。

最初に、歳入について説明を申し上げます。

お手元の補正予算書の8ページをお目通しいただきたいと思います。

14款4目1節で、四つの補助事業につきまして今回、国・県の支援を受けるものでございます。一つ目としましては産地緊急課題特別対応事業及び2番目のがんばる産地支援事業、3の新産地づくり支援事業、これはいずれも県単独の補助事業でございます。4番目の強い農業づくり交付金、これにつきましては国の補助事業でございます。

なお、事業の詳細等につきましては、歳出のほうでご説明を申し上げます。

歳出の12ページをお開きいただきたいと思います。

6款の農林水産業費、3目の農業振興費についてご説明を申し上げます。

説明欄の1の農業振興事務費、負担金補助及び交付金の生産育成事業補助金36万8,000円につきましては、トマトの黄化葉巻病防除対策事業の補助金でございます。本補正につきましては、当初予算で市単独で73万5,000円の補助を予定しておりましたが、平成20年度、千葉県におきまして県単独補助事業が創設をされました。市単独事業から県単独事業を活用して、トマト栽培農家の防虫ネットの設置等につきまして支援をさせていただくものでございます。当初の事業費が147万円、これを今回補正をしまして、事業費ベースですけれども、74万6,000円増の221万6,000円とするものであります。一部、県補助事業では対象者が認定農業者に限っております。トマト栽培農家すべての事業対応が必要であるというようなことで、市の単独事業の中では認定農業者以外のトマト栽培農家も含めまして支援をさせていただきたいというふうに事業で考えております。

なお、本予算にて15戸、施設園芸面積で434アールの施設について支援を行う予定で考えております。

次に、米の力再発見事業の補助金でございます。この事業につきましては、市単独事業で実施をさせていただきたいというふうに考えております。米の生産調整の一環として、米の活用が新規需要米として生産調整の手法として現在認められております。次年度の取り組みのステップとしまして、この秋に米粉を利用した製品の開発としまして、米粉を利用しためん等を試作をしながら、市内の小・中学校の給食あるいは秋の市内のイベント、こういうところで作りましためんを試食等しながら、この米粉の利用について検討をしていきたい、そういうふうな事業でございます。

次に、豊かな産地づくり支援事業のがんばる産地支援事業、これは県単独の補助事業であります。飼料用米栽培に取り組みます団体の機械装備につきまして支援をさせていただくも

のでございます。事業は、市内の嚶鳴宮農組合のコンバインの導入につきまして、支援をさせていただきますのでございます。

次に、「園芸王国ちば」強化支援事業の新産地づくり支援対策事業でございます。これにつきましては県の単独補助事業でありまして、需要に機敏に対応した新規作物等の栽培について支援するものでございます。事業は、市内の富浦地区土地利用調整推進協議会が主体となり取り組みます土地改良事業施行地でのブロッコリーの栽培に係ります移植機さらに播種機等の導入に際しまして、支援をさせていただきますのでございます。

最後に、経営構造対策事業の補助金でございます。この事業につきましては、国庫の補助事業であります。この秋から面整備が行われます萬力Ⅱ期地区の土地改良事業地、この実施を契機にしまして、農業者の機械、施設整備を進めるものでございます。本年度分の国庫補助金の内示がありまして、当初の補助金9,016万9,000円から、今回7,916万円増の総額1億6,932万9,000円の補助金とするものでございます。全額、国庫補助金でございます。

本事業につきましては、平成19年度から21年の3か年の継続事業として実施されるものでありまして、全体事業は五つの法人、これが設置します二つのライスセンター、さらに6万2,000平米のビニールハウスの施設等につきまして支援をさせていただきますのでございます。国庫補助金の3か年の補助金の予定としましては、既に約6億円の承認をいただいているものでございます。

以上で農水産課関係の補正予算についての補足説明を終わります。

○委員長（嶋田哲純） 建設課長。

○建設課長（米本壽一） それでは、補正予算書を見ていただきたいと思います。

今、農水産課から12ページの説明がありました。同じように12ページの一番下になります。土木費の道路改良費でございます。ちょうど13ページとまたがっているところであります。

最初、15節工事請負費5,880万円、これは議案質疑等でもございました中央病院の新館建設に伴う、その付け替え道路の工事費用でございます。

この道路につきましては、図面を配ってございます。この黄色い色付きのコの字形の図面を作っておりますので、ちょっと長くなっちゃいますけれども、この道路の説明をしたいと思っております。

広げて見ていただきたいと思います。

横長になっております。左側が北側です。中央、コの字になっている所が、もちろんその付け替え道路の位置なんですけれども、コの字に囲まれている所が、ちょっと字が小さいん

ですけれども、新本館の位置になります。だから、この新本館を避けるような形で道路がコの字になっているということです。

色付きの左側の道路の下側、図面でいえば下側です。にわという食堂があります。そのこの食堂の位置です。表示はしてございませんけれども、ここがこの食堂の位置ということです。真ん中に新本館があり、コの字に曲がって南に抜けていくという道路でございます。コの字の上側に中央病院の体育館がございます。これもちょっと字が小さいんですけれども、東体育館とかと、こういうふうに表示されておりますけれども、体育館の位置がこのようになります。

説明は、記載されておりますけれども、この辺のところを詳しく述べたいと思います。

左の上に工事内訳というのがございます。延長は248メートル。ちょうどこの黄色く塗られている所が248メートルの中です。幅員ですけれども、12メートルと。これは両側の歩道と車道を含めたのが12メートル。括弧9.5というのは、その食堂のにわの位置が片側歩道になっていますので、この部分が2.5メートル少ないという括弧の9.5メートル。議案質疑でも申し上げましたけれども、車道部分は7メートルであると。現況幅員は、今は約5メートルというところなんです。それが2メートル増えて7メートルになりますよということです。

あと、ずっと記載されております。舗装工があつて、排水工。舗装工が2つあります、車道、歩道。BOXカルバートつてあります。これは600というのはそのサイズでありまして、600ミリです。このボックスを道路の中央付近に入れたいと思っています。ご承知のとおり、あそこは大雨が降りますと、道路に雨がたまる。道路冠水が起こる所でありますので、これは何とかしなくちゃいかんということで、道路の中央部分の下にボックスカルバートを入れる。その表示が、この図面の一番下側のほうに入っています。これは「標準断面図 S = F r e e」つてありますけれども、この12メートル幅と、その下にボックスの位置が分かるかと思います。こんな感じでボックスを入れようかなというふうに今検討しているというか、こんな形でやろうかなと思っているわけであります。

また、左の上の表示の所に目をおろしてもらいたいと思いますけれども、あとは排水工があつて、ガードパイプ。ガードパイプというのは、駐車場と道路部分をガードパイプでもって分離しようということでもあります。それと、安全施設工として、横断歩道があつて、カーブミラーがあつて、カラー舗装があつてと。

横断歩道なんですけれども、このコの字の道路の左側というんですか、その部分1つに赤い横断歩道のマークがあると思いますけれども、ここが横断歩道の位置であります。赤くな

っていますね。これが横断歩道。この辺も歩行者は出入りを一つにしましょうと。今は木を植えてある所を自由に行ったり来たりできるわけですね。それを今度は一つにしましょうということ。これは警察のほうの指導がありまして、できるだけ集約しましょうよと。安全性を考慮して、一つだけに集約しましょうよという指導がありましたので、このような絵になっているわけでございます。その手前にカラー舗装があったりという、そんな状況であります。

それから、左の下、その表示の例が幾つかあります。L型側溝、これは全線両側にL型側溝が付くわけですが、これは道路表面に降った雨の水をはくための側溝であります。側溝にたまった水というのは、この図面でいえば左側、つまり北側に流れるように持っています。北側には水路がありますので、そこで受けてもらおうというようなものであります。

それから、あとは歩道切下部というのがありますね。この辺のところは、これも車の出入りをあまり自由にさせないで集約しましょうということにしました。これも安全面を配慮したところなんですけれども、駐車場の入り口を切り下げで入るといような、こんな状況であります。

せっかく図面を広げてもらったついでに申し上げますと、中央病院の一番込みそうな時間帯が9時から10時、8時から10時と言ったほうがいいでしょうか、その辺の交通量をここで調べさせてもらいました。そうしましたところ、約600台この道路を動いているわけです。それは北から上がってくるのもあれば、南側から行く車もあれば、駐車場に直接入る車もあれば、そのまま通り抜ける車もありますけれども、そのうち北に抜ける、南に……、真っすぐ抜ける車って何台あるのかなと分析しましたところ、これはある日の1日ですので、たまたま8時から10時の2時間です。そうしましたところ、さっき言った600台が全体です。そのうちの92%であるのは、もうほとんど中央病院のこの駐車場に何らかの形で入っているんですけれども、8%の48台が真っすぐ抜けるというように、そんなデータも持っております。この図面の説明は以上でございます。

それでは、また補正予算書に戻っていただきたいと思います。

今は15節工事請負費5,880万円を図面をもって説明をさせていただきました。

この歳入につきましてでございます。予算書の9ページをご覧いただきたいと思います。

9ページ、19諸収入のところ中央病院の道路付け替え分の負担金、道路改良工事負担金、これが5,880万円、すべて中央病院からもらうというようにございまして。

すみません、また13ページに戻っていただきたいと思います。

続いて、17節公有財産購入費、22節補償補てんの説明に入りますけれども、これは日下議員が議案質疑の中で質問があった件なんですけれども、もう一度申し上げたいと思います。

17節の公有財産購入費も補償補てんも、ある程度用地のめどが立ちましたので、ここで補正させてもらって、今年度の工事にさせていただきたいというものでございます。公有財産のほうは、袋地先、十日市場地先の2か所でございます。22節の補償補てんにつきましては、袋、十日市場に加えまして、清和乙、見広、あとは川口が補償補てんの必要が生じたというものでございます。

それから、次の説明欄二つ目の防衛施設周辺民生安定事業、この説明をしたいと思います。

この事業につきましては、忍坂、横根、塙新町に向けた約2.2キロメートルの道路を整備しているものであります。既に1.8キロの工事を終えております。すべて終えております。あと400メートル。この400メートルが塙新町の集落内の整備であるということでありまして、17節、22節、いずれもその用地交渉に向けての金額でございます。

ここでは補正の額しかありませんので、当初予算と合わせた数字で、これだけかかるのかなというところをちょっとメモをしていただきたいと思います。17節、土地を買うほうにつきましては、当初予算は480万円でした。今回補正が130万円ですので、合わせて610万円ということになるわけでございます。ちなみに、人数は16名おります。22節補償補てんですけれども、当初予算5,355万円でした。それに対しまして、ここに補正するのが1,860万円ですので、合計しまして7,215万円というのが最終的な数字。

もちろん住んでいる建物があったり、工作物があったり、あそこは大きい木がいっぱいありますので、その補償だとか、あとは動産だとかということになるわけでございます。建物関係もやはり17人と申しますか、17件の対象者がいるということで、もう既に交渉は始まっていますけれども……、というような状況です。20年度と21年度に用地交渉を行いまして、この事業は22年度をもって工事を終了させたいと、こういうふうに思っております。

説明は以上です。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

補足をして説明がございましたら、お願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 担当課の説明は終わりました。

議案第10号中の所管事項について、質疑がありましたらお願いいたします。

滑川委員。

○委員（滑川公英） 今の建設課の道路付け替え工事なんですけれども、市でやるのであれば、中央病院から5,890万円ですか、これはもらう必要はないんじゃないかと思うんですが、いかがなものでしょうか。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員の質問に対して答弁をお願いいたします。
建設課長。

○建設課長（米本壽一） この辺も中でも二つに分かれちゃったところなんです。どうせ市でやるんだから、もらう必要はないだろうという。あんなに真っすぐな道路が新館建設に伴って曲がるんですから、それは会計は病院会計と一般会計と違いますので、もらうのがいい。この辺は議論したんですけれども、最終的にはもらうという方向で。

今、議案質疑でも一般質問の質疑でもいろいろ話があった開発行為とは全く関係ありませんので、この関係は市の内部のことですので、それは確認とてあります。最終的にはもらうということにしました。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員。

○委員（滑川公英） であれば、県の都市計画課に相談に行く必要はなくて、正々堂々と市だけでやれる話なのに、なぜ道路のことについて県のほうにお伺いに行ったのでしょうか。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員の質問に答弁を求めます。
建設課長。

○建設課長（米本壽一） この辺も議案質疑とか一般質問で申し上げましたんですけれども、これが気になっていたんです。これは市がやるといっても、これが気にはなっていたわけです。ですから、確認に行ったわけです。最終的には、何度も答弁しているように、当たりませんよと言うものですから、安心して帰ってきたと。

安心して帰ってきたというとあれですね。これは新聞報道でもちょっと書かれちゃったんですけれども、私はおかしいと思っているというふうに新聞報道では見られがちだったんですけれども、そんなことはありません。これは県に聞きに行って、私から意見を言うところは全くなかったわけです。そうですかと言って帰ってきたんですので、この辺ももう一度ここで言わせていただきたいと思います。あくまでも開発行為との絡みが心配だったもので聞きに行ったわけです。

以上です。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員。

○委員（滑川公英） 県のほうだと、最初から開発行為云々ということであれば指導はすると。

でも、最初から来ているのが、開発行為じゃなくて市道の付け替えについてということだったんでということで、言葉を濁しているというのを担当者から聞きましたんで、行政がやることにしてはちょっとグレーがかっているところがあるんじゃないかなと思ひまして、それで聞いたわけです。

○委員長（嶋田哲純） ほかにございませんか。

平野忠作委員。

○委員（平野忠作） すみません、では12ページの説明欄の1番の農業振興事務費で、米の力再発見事業補助金の104万7,000円ですか、この米粉の事業というのは、これは1年間でどのくらいやる予定のものでしょうか。それと価格の面でどのくらいのものなのか。

それが1点と、もう一つ、「園芸王国ちば」強化支援事業の富浦地区でブロッコリーの作付ということのをさっき言っていましたけれども、これは面積はどのくらいを対象にしているのでしょうか。

その2点をひとつお願いします。

○委員長（嶋田哲純） 平野忠作委員の質問に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それではすみません、ただいまの質問でありますけれども、名前としまして米の力再発見事業ということで、先ほど言いましたように、実は米をそのまま食用としますと生産調整にならないんですけれども、米粉としまして活用するというのであれば、新規需要米というようなことで生産調整として該当する。来年はぜひこの事業を多く取り入れたいなど。ただ、千葉県でも来年は多くやろうということで、この間、農林部長からも話があったわけですが、来年いきなり春からスタートじゃなくて、旭市については県に先駆けてこの秋から試作を行っていききたいなど、そんなことで今回急遽補正で出させていただいたものであります。

現在想定していますのは、米粉の購入、玄米の購入というようなことで、実は8.5俵予定をしております。これを購入。8.5俵につきまして米粉にしまして、これを生めん、うどんに加工をしてみたいということです。ただ、加工賃が実は60キロ当たり6,000円ほどかかります。米粉にしますと若干加工賃がかかるわけですが、これは業者委託をしましてめんを作っていきたいなど。実は、学校給食に6,250食、市内では小・中合わせますと予定されているわけですが、これを生徒・児童に1食試食をしていただいて、評価をしていただこうかなというふうに考えております。それと、市内の方々にもぜひこれを評価して

いただきたいというようなことで、秋に予定しています産業まつり、ここで約4,000食作成をさせていただきまして、市内の方々から評価をいただきたいというふうに考えております。

さらに、この事業の中では、実は農商工等連携促進法というのが本年の7月に施行されております。うまくこういう事業を活用しながら、米粉を機に、米粉に限らず、農水産業者と商工業者が一体となった取り組みを何か進めていきたいなど。そんな組織の立ち上げを視野に入れながら事業を実施していきたいと。

その中で、単なる生めんの試食だけじゃなくて、乾めんをぜひ試食していきたいなど、作ってきたいと。乾めんというのは、一つ手土産代わりにもなりますので、そういう乾めんの製造委託をしながら、ラベルの作成、そういうものをしながら、この事業を進めていきたいというふうに考えております。

それとあと、富浦地区の先ほどの事業でございます。ブロッコリーを昨年から作っております。ただ、どうしてもブロッコリーを手作業で植え付けするというのはなかなかちょっと問題があるというようなことで、大きな面積の取り組みについてはぜひ機械を入れたいというようなことで、急遽、県に相談した中で、ちょうど県単事業、旭市には支援していただけるよということで、富浦地区のやる気が県のほうにも伝わっております。そんなことで、本年は4町歩のブロッコリーを栽培をしたいというふうに計画で来ております。最終的には6町歩を目指したいということで、事業を予定をしております。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） ほかにございませんか。

滑川委員。

○委員（滑川公英） ……（録音漏れ） ……萬力Ⅱ区の予算なんですけれども、5法人でライスセンターとハウス事業をやると。現実には、これはもう落札されている状態なんですか。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員の質問に対して答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 先ほど言いましたように、現在、事業につきましては平成19年から21年ということで、19年は実はライスセンターの設計業務等を一部させていただきました。そんなことで、3か年で補助金ベースで約6億円、もう既に承認いただいております。本年の事業、来年の事業等につきましては、実は一括で入札行為等も一部やっております。ライスセンターにつきましては、1か所既に入札を終わっております。契約も既に実施をされている。あと、ビニールハウス等につきましては、既に入札をやりまして、落札業者も決まっ

ております。ただ、今、一部契約行為の中で若干法人のほうから箇所の修正ですか、やはり契約する間際になりまして、どこどこをちょっと直したいとか、今ちょっとそんな調整をしております、これから契約業務に移る予定であります。ただ、契約につきましては、補助事業等もありますので、単年度の契約で、予算書に従った、内示金額に従った金額で施工をしていく予定で進めております。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員。

○委員（滑川公英） ライスセンター事業にしても、ハウスのことにつきましても、これは設計段階というのはだいぶ前のことだと思うんで、前に中央病院でも私、言っていたんですけども、現実にはそれでできるのかと。相当コストが上がるんじゃないのかと言われている中で、価格をそのまま最初の申請するときの価格でやっていった場合に、品質的にはどのような方向に動いているのか。

特に地元の生産者については、悪いものを造らされるおそれがあると。ですから、その辺の設計の見直し、ないしは部品の見直し、ないしは面積の縮小とか、そういうことも考えていかなくちやしょうがないんですけども、行政はともかく設計のときの金額でやれの一点張りだと。それでは本当に困ると。悪いものを建てさせられて、本当に耐用年数に耐えられるのかと。そういう話も聞いているんで、その辺のことについてはどうお考えなんでしょうか。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員の質疑に対しまして答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 経営構造対策事業、ご承知のように、実は平成19年に、もう今年限りで終わりにするよという国のほうの方針がありました。多分この地区は全国で最後の地区になるのかなと。そんなことで、なくなるよということを受けましたので、県の担当の方に19年にぜひ入れてほしいということで、19年に事業採択されまして、3か年継続と。事業がなくなっても、実は国は約束したものは3か年は支援はするよと、そういう流れで、現時点では経営構造対策事業、一切国では採択をしていないという現状です。国ではこれが最後の経営構造対策事業になっている。

今おっしゃいましたように、悪いものという理解は我々は一切しておりません。ただ、一部、最初から担当課として話をしていたことは、どうもちまたで補助事業をすると事業費が高くなってしまって、例えば5割支援を受けたとしても、農家負担はあまり変わらないんじゃないかと。事業費が高くなれば、幾ら補助してもらっても、我々が出す金は同じだという、実は農業者からそういう変な声が聞こえてきました。これはただならぬ意見でありますので、

我がほうとしてみたら、補助事業だからこそ、実はいいものを安い事業費で造るというのが我々補助事業ということで、業者の方にも今回ひとつ勉強していただきたいと。この補助事業を活用して、ぜひ会社のPRをしていただきたいと。そんなことで、補助事業だからといって事業費を高くするようなことは我々は一切考えていません。それで、なるべくコストを下げるような工夫も事業者の方にしていただきたいと。

実は、それぞれ仕様等につきましては各農業者の方が詳しい。我々職員が入ったことは一切ありません。農業者の方がそれぞれ専門的な知識をもって、こういうハウスを建てたい、こういう部品を作りたいと。そういうような形で、この仕様についても、この部品と同じ程度以上という、そういう表現を業者に示しまして、入札行為をしたわけでありまして。

落札の中では、農業者の方からしてみたらば、自分たちの思っていた金額よりも相当低かったと。これはありがたい話で、低い金額で契約できれば、国費の税金投入も少なくて済みます。事業者の負担も少なくて済むわけでありまして、この金額でいきたい。

ただ、いろいろ悪いところは契約する前に全部直そうということで、ただそれは入札のときのいろいろな条件もありますので、違った、フライングしないような形で今契約行為を進めているところでございます。

決して悪いもので安くということは毛頭考えておりません。いいもので安いということで心がけておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員。

○委員（滑川公英） これはやはり聞いている話ですけれども、農業者もそれからメーカーも泣いていて、全然得する人が誰もないと。ただ、行政がそういうような話になったから、中央病院でさえ183億円を22億円もアップしていたわけですから、これが最初の仕様のままで本当に同じような製品、部品、その辺ができるかどうかと。農水としては、それをそこまでちゃんと精査しているんでしょうか。それでなかったら、多分国産の部品でなくて、韓国とか中国の安い部品とか本体とか、そういうこともありますし、逆に言えば、それで今、国内製品であれば、去年の仕様書でやって、現実にはできるハウスもライセンスも何もないと思うんです。そうであれば、どこかで誰かが相当泣くようになっているということになるんじゃないでしょうか。その辺のことをどのようにお考えでしょうか。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 先ほど補足説明で申し上げました3か年で事業をやりま

も、国の補助金ベースは6億円ということで既に計画の承認をされています。要は、6億円の補助金はこの地区に約束をするよと。実は、この6億円、そうしますと12億円の事業費ですけれども、12億円の2分の1、6億円は予算は付けるよと。極端に言いますと、これが15億円になっちゃいますと、補助金が1億5,000万円足りません。足りないということは、実は国は農業者の方には6億円は約束してあるけれども、補助率は約束は2分の1以内という、そういう表現です。ですから、2分の1を約束しているわけではないと。ですから、事業費が高くなると、実は補助率が落ちます。補助率は40%とか。国は50%以内だから、以内という表現は、40でも以内だよという。

そういうことを事業者と一緒に考えた中で、ぜひ国が言っている50%以内の50%をいただきたいと。でない、自己資金の持ち出しが多くなって、いろいろな金融機関からの借入れがなかなか困難であると。そんなことで、我々は事業者と一緒にあって、なるべく50%の補助金をいただけるように事業費の説明に努めようということをやったわけでございます。これは市の職員がやったわけではなくて、農業者と一緒にそれぞれ安く事業費を上げたいというようなことで取り組んだわけでありませう。

一つとしまして、そのうわさによりますと、9月に入ってから発注になってくると、どうもその鋼材が上がってきて、ハウスが上がってくるという、そういういろいろな方の話がありました。そういうようなことで、8月に急遽前倒しをして、入札行為等も急いだわけでございます。そうした中で、だいぶ安く入札行為もできたのかなというふうに考えています。

それとあと、契約の中ではスライド条項、物が上がったから、これだけ事業費を上げるよということは一切……。民との契約ですので、事業者を確認したところ、それは条項を設ける予定はありませんということでありませう。会社の努力で請け負っていただくということでございます。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員。

○委員（滑川公英） どうもありがとうございました。

それで、多分この6万2,000というのと、とてつもなく広いハウスだと思うんです。実際には、これは総額でどのくらいで、あと一番懸念されているのは、要するに担保ですよ。多分スーパーLを借りると思うんですけれども、この担保をどのようにとるのか。そこまで想定しているわけでしょうから、これが現実には2町や3町持っていたからって、担保は……。ここに委員長もそうですけれども、農協ではそんなにはとれるわけないんです。普通、市中金融機関とかはもっととれませんよね。この担保についてはどのような指導を農水のほうで

はしているのでしょうか。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 事業費でありますけれども、量としましては、先ほど言いました正式には19棟、6万2,015平米でございます。現在想定しています事業費につきましては、1億2,526万円というようなことで事業費を予定しております。これの2分の1を国からいただく。新設法人でありますので、一部の法人については消費税を含めて補助金をいただく。場合によっては、ほかの法人につきましては、逆に消費税は含まないで補助金をいただきたい。ということは、消費税の還付という制度もあるわけです。事業1年目は売上げはないんですけども、買うものが多くて消費税の納入が多かったわけです。その消費税を返していただいたほうが補助金をもらうよりもいいという、そういう考え方もあります。そんなことで、消費税を入れての補助金、入れないでの補助金、そういう形で動いている法人が幾つかあります。

それと、補助残につきましては、ライスセンターにつきましては、実は農業近代化資金を使う予定ということで聞いております。あとビニールハウス等につきましては、公庫資金のスーパーL資金を活用いたします。ただ、事業費が多いもので、なかなか公庫がそこまで貸せるかというのはいろいろ問題がありました。それは我々も動きました。公庫に頭を下げまして、この法人のやる気をひとつ担保としてとっていただきたいという、そういった中で、公庫はやる気を担保ということは口では言うんですけども、実行はなかなかされなかったわけですけども、今回については、やる気というわけにはいきませんが、償還期間をなるべく長くとっていただいて、当初は10年ということをや14年という長い期間をとることによって、1年間の償還金額を少なくする。そういう手法をとりながら、現時点ではほぼ公庫資金でいけるということで我々は理解しております。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員。

○委員（滑川公英） どうもありがとうございます。

ということは、担保は足りるということ。やる気が担保か、それとも土地が担保か、その辺なんです。その辺は濁してもらったら困るんです。我々も農業者ですから、特にその辺のことでみんな悩んでいるわけです。大きくしたいのに、スーパーLでは担保がないと。そうしたらお金が借りられないから、規模を大きくできないと。そんなもので、その辺のことをはっきりここでおっしゃっていただきたいんです。ただやる気といっても、本当にやる気だ

けでスーパーLを貸してくれるのか、それとも施設担保にするのか、そのどっちかと思うんですけども、それはどのようにお考えでしょうか。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 公庫資金につきましては、きょうも実は干潟支所には公庫の職員が2名来ておりますけれども、ご承知のように月2回資金相談等を行っております。これは県内でも我が旭市だけでございます。今回の補助事業につきましては、我々も千葉支店のほうにも何回も伺いました。今、委員が言いましたように、やる気だけで貸してくれるかといったら、なかなかそう甘いものではない。一つは、今回施設を設置しますビニールハウス、これも担保にとっていただきたいと。それと、場合によっては資産、自分たちが持っている田畑、これも今とる予定で考えております。農業者の方には、借金をするときには必ず担保はありということで理解をしていただきたいということで、担保を出さないと借金したいというのは、ちょっとこれは経営者能力に欠けるのかなと。

ただ、問題は田畑を入れても足りないという方がいます。ただ、今回は法人での借入れでございます。例えば5人で借りるということじゃなくて、5人で一つの法人、その法人が借りるといことですので、ある方がないということであれば、ある方で多いという方は少し多く担保を出してもという、そういう解釈もあります。

ただ、なかなかそうはいかないわけで、最終的には若干担保が能力不足をしているのが現実であります。そこは先ほど言いましたやる気という部分、ちょっと表現的にはまずいのかなと今思ったんですけども、経営者能力ということで、これは公庫でも最終的にはそこは判断しますということです。ただ、担保がなくても貸しますよというのは、公庫は一切最初から言いたくないと。最後、その農業者の方が、私はやる気があって能力もあるよと。実は、それは公庫の担当の職員にそれを伝えてほしいと。思いをです。そんなことで、現実的には担保不足の方もいます。それについては、公庫は最終的にはその経営者の経営能力を見て、今は貸せる方向で動きますということで、担当の方からは聞いております。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員。

○委員（滑川公英） どうもありがとうございました。

ということは、土地を出すのは常識ですよ。それで、近代化にしても、1,800万円以上オーバーした場合には、もう今まで1,800万円だとゼロ円だったものが、すべて担保になりますよね。スーパーLは最初から全部担保をとっていますけれども、大きくやった場合には、

現実にはほとんど担保は農地では足りないんです。ということで、今の課長の話では、要するに経営者の能力と施設担保をすれば何とかなるという話でよろしいですね。

これからの農業経営でそういう話がありましたら、ぜひ農水はそれで動いてくださいよ。萬力Ⅱ区だけでというあれなら困りますからね。言っておきますから。我々は、今まで全部それで苦勞しているわけですから。

○委員長（嶋田哲純） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 委員の今のご質問、ご意見でございますけれども、我々は萬力Ⅱ期地区の農業者に限ってということではございません。ただ、公庫の職員と相談をする際に、こういう席で言うのはあれですけども、なかなか公庫の職員、民を圧迫してはいけないということがあります。ですから、最初は農協での公庫資金の利用ということをご検討くださいという形で必ず入ります。というのは、公庫の職員が面倒くさいから農協へ行けということではありません。実は、批判的な方もいまして、何で官が民を圧迫するんだと。そういうことは公庫に必要なのかという方もいます。そういうことで、公庫の職員としましては、最初は農業者の方は農協が身近でしょうということになっています。

ただ、農協に行って断られたらば、ぜひ我々に電話をくださいと。ただ、すべての方に貸せるということじゃなくて、我々が動くのは、その方に強い経営の意思と能力があるということであれば、公庫に何回も出向きまして貸していただくように努力をいたします。ただ、すべての方ということは。逆に、貸しては経営がおかしくなる方もいます。農家を救ったつもりが、大きな負債を抱えて、逆な効果を生むということもあります。そんなことで、我々は萬力にとどまらず、市内すべての農業者に同じように接したいと思っていますので、よろしくをお願いします。

○委員長（嶋田哲純） 林委員。

○委員（林 七巳） たびたびの農水の質問で申し訳ありませんが、飼料米についてちょっとお尋ねしたいと思います。

今年またどのくらい集まったのか、また今、事故米がかなり騒がれていますので、飼料米がまた食用に回らないように、追跡はどのようにできるのか、その辺のところをちょっと聞きたいと思ひまして、よろしくお願ひいたします。

○委員長（嶋田哲純） 林委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 飼料用米につきましては、本年から国が施策として打ち出しをし

まして、これを活用しようと、転作の一つの切り札にしようということで、飼料米と先ほどの米粉について今進めております。

量ですけれども、申し訳ありません、今まだ刈り取りが終わっていないという方もいます。専用品種はこの9月末が収穫適期ですので、まだほ場にあるものもあります。そんなことで、ちょっと量の把握はしておりません。面積的には40町歩を超える面積、40.幾つ、すみません、正式には40を超えています。県内の中では、これは断トツの面積であります。春先の調査の中では、旭地区が県内の半分以上を占めているということでもあります。そんなことで、40町歩を超える面積を平成20年はやらせていただいております。

あと、事故米の関係ですけれども、実は、現在まで今たびたびテレビに出てきます農政事務所、ここと打ち合わせをしまして、このえさ米についてのいろいろな出荷をする際のチェックはいいんですかという話をしていましたところが、すべて市の行政の方にお任せしますということで彼らは動いてきました。ただ、ここへきて、後で我々が立ち会うべきところを云々と言われてもしょうがないということで、明日、農政事務所へ行って正式に……。現時点では、実は畜産農家の倉庫に入れてございます。その倉庫をひとつ農政事務所も確認しないでいいんですかということを開きに行きます。こういう時代ですから、ちゃんと我々も市の責任は持ちますけれども、ちゃんと農政事務所も責任を持っていただきたいということで、事故米のないように努めていきたい。

現在、一番神経をとがらせているのは、くず米がよそへ行かないかなということで、例えばグレーダーを網目も大きくして、くず米を大きく出して。くず米については、ほかへ流通しちゃうと大変なことになります。そんなことで、くず米も含めてえさ米として出荷をしていただきたいということで、事故のないように努めていきたいと思っております。

○委員長（嶋田哲純） ほかに質疑はありませんか。

滑川委員。

○委員（滑川公英） うちのほうの米作の人らがもうみんな心配しているのは、例えばえさ米にして出したのに転用されると。実際には、今やっていることが、ほとんど三笠フーズで375社とか、末端は全然知らないで、それが事故米でなくて、普通の優秀な米だ、粉とかということになっているのが現状ですよね。ですから、例えば飼料米にしても、これは実際にはDNA鑑定すれば……。旭市の場合は全部あれですか、同じ品種を作っているんですか。そうであれば、DNA鑑定すれば、どこへ行ったかすぐ分かるわけですから、そこまでやらないと、簡単に言うと、倉庫に入っても違う米と変わって、それがもし、いい米であれば

出荷される可能性もあるわけでしょう。裏取引というの。それは全部信用すればいいわけですが、現実には全国的に被害をこうむっているんですから、農家が安く出したものを高く売って、どこかで誰かだけがもうかるというシステムというのはすごくおかしいと思うので、その辺はちゃんとやっていただかないと、一番下で一生懸命米を作っている農家が、ふざけんという話になっちゃうと思うんです。

ですから、これについてはお隣の市では何かえさ米について1等級でコシヒカリでないとえさ米にならないって、そんな常識外れたこともちょっと話を聞いたんですけれども、我が旭市では、これはえさ米については等級があるんですか。要するに、品種があって、等級があるんですか。その辺のこともちょっと一般に公開していただくように教えていただきたいと思います。

○委員長（嶋田哲純） 滑川委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） えさ米ですけれども、専用品種という種類はございます。えさ米用に作った品種ということです。これは食べると、国の職員はまずいと言うんですけれども、我々はちょっと食味してみましたけども、そんなにまずくありません。ただ、見てみると、やはりこれは食用には適していないなという表現は分かりますけれども、チャーハンにしてみたら、多分食べられるのかなと。そういうことで、国の方には、皆さんはまずいと言っているけれども、農水省の部長はまずいと言っていますけれども、我々はじかに食べてみたら、これはいけますよということも、その辺はちゃんと国に伝えてあります。これは不正流通を防止しようということ。

ただ、専用品種を作ると、先ほど言いました9月、まだ田んぼにあります。ここの地域で専用品種を作ると、9月末に、これから台風も来るようなときに農家の方にこの品種を作れというのは、ちょっとこれは無理な話かなというふうに考えています。そんなことで、県の方には、この専用品種を奨励するよりも、我々はわせ品種を奨励したほうがこのえさ米の制度としては適しているのではないかなと。そんなことで、えさ米については、わせ品種をなるべく早く開発してほしいという話をしております。今月の29日には、国あるいは農水省の職員にこの市内に来ていただきまして、その辺も伝える予定でいます。

ただ、現在、市の中では専用品種を作っている方もいます。それと、一般の品種、ふさこがねですか、それを作っている方も数多くいます。これをやはり不正流通のないように、我々はちゃんと生産者の方には……。検査はしません。飼料米ですので、検査をする必要は

いりません。ですから、検査をしないで、そのままフレコンあるいは紙袋に入れて出荷をしていただきたいと。これは1斗とかあるいは何キロ出してほしいんじゃないで、契約した面積、そこから出るほ場からすべてのお米を出していただきたいということで確認をさせていただきます。

我々はほ場で毎日チェックをしているわけじゃないんですけれども、市内の生産調整に本当に取り組んでいただけるという方は、本当に生産調整を理解していただいている方でございます。この方々を信用しております。ただし、信用だけでも困ります。10アール当たりから出た米の数量もある程度チェックをします。例えば7俵しか出ていないのは何かあったのかというような。そういうのは普通では考えられませんので、通常の品種よりも多分多く出荷されるのが普通のえさ米ではないかなというふうに考えていますので、その辺のチェックは一応やる予定です。

あと、隣の匝瑳市から我々は受けております。匝瑳市からの希望で、旭市の利用者協議会で受けてほしいと。ここは農家の方と直になかなか話ができなくて、必ず行政が中に入ってそれを伝えますって必ず来るんです。直に話をしないでほしいと。行政の方には、匝瑳市で責任を持ってほ場からすべてのものを出していただきたい。先ほど言いました10アール当たり、等級だとか、そういうことはする必要がないよと。それは、そんな経費をかけるならば、農家に手元に残るような工夫をしていただきたい。それと、匝瑳市ではくず米だからといって出荷しないということはないよねということで、念を押してございます。

○委員長（嶋田哲純） ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようですので、議案第10号中の所管事項についての質疑を終わります。

続いて、議案第16号について、商工観光課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） 議案第16号につきましては、本会議で説明したこと以外に補足して説明することはございませんので、よろしく申し上げます。

○委員長（嶋田哲純） 商工観光課の説明は終わりました。

特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

平野浩委員。

○委員（平野 浩） この改正する定款ですか、公有地の拡大の推進に関する法律に改めるといふことですが、これは土地収用法との関連はあるのでしょうか、お願いします。

○委員長（嶋田哲純） 平野委員の質疑に対し答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） 土地収用法との関連はないと思います。

○委員長（嶋田哲純） 平野委員。

○委員（平野 浩） 公有地の拡大の推進に関する法律ということですが、この法律はどんな内容の法律なのでしょうか。

○委員長（嶋田哲純） 答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） 公有地拡大に関する法律の中に旭市土地開発公社の仕事が定められるという部分でございますので。

○委員長（嶋田哲純） 平野委員。

○委員（平野 浩） その言葉、文言ですか、それは分かりますけれども、これからいろいろ……。今現在進行中の事業もありますけれども、いろいろその事業の計画を円滑に進める中で、こういう定款の改正があったと思うんですけれども、その中で具体的な事業とかそれから目的については全然……。考えがあつての定款の改正じゃないかなと私は感じたわけなんですけれども、土地収用法の言葉も最近いろいろ聞かれることもありますので、その辺ちょっとこの問題と関連していると思いますので、お聞きしました。何かありましたら、お願いします。

○委員長（嶋田哲純） 平野委員の質疑に対し答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） 公有地拡大の推進に関する法律の中に、土地開発公社の事業、主な仕事という部分が記載されているわけでありまして、当然土地の先行投資という部分、事業用地に使うわけですから、それを事業として乗せるために先行投資といいますか、土地を先買いするというのが、それができるように、事業をスムーズに進めるためにそういう法律があるというふうに理解しております。当然そのためには税法上の優遇措置もございまして、そういうものを活用しながら土地の先行取得をしていくという目的であります。

今回の定款の改正というのは、そういう中身の改正ではございませんので、あくまでも議案第12号でしたっけ——で説明したように、民法で措置されていた部分について、すべて

そういう部分がいろいろな法律が改正になったという。幹事の職というのは、一般的にはいろいろな法人、社団法人もそうですけれども、民法の中の規定を引用していたわけですが、今度はそういうものがすべて変わったという部分の中において、そうしますと、当然公社は公有地拡大の法律の中で仕事をするようになっていきますので、その中に今度そういう幹事の職というものを載せたという部分ですので、公有地拡大の法律のその中の趣旨が変わったわけではございません。目的が変わったわけではございません。

以上です。

○委員長（嶋田哲純） 平野委員。

○委員（平野 浩） 内容の目的が変わったことでないという答弁でしたけれども、今、私が話した旭市の事業について、いろいろ進めている事業、土地の関係が特にネックになっているという部分もあるようですので、管轄は違いますけれども、先日、都市整備課長の答弁の中に、来月ですか、10月には収用委員会の許可がおりるといような話もありましたもので、その辺を考えると、何か事業に対する関係があるのかなど。内容的に、目的はただいま課長のほうから言われたことは分かりますけれども、その辺をちょっとお聞きしたかったもので、お願いします。

○委員長（嶋田哲純） 平野委員の質疑に対し答弁を求めます。

都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 10月からという収用の件で、これは下宿ふれあい公園です。これはまず公有地の拡大の推進に関する法律は、都市計画区域ですね、旧旭市しか使えないんです。今、合併しまして、旧飯岡町、海上町、干潟町、これは都市計画をしいていませんので、公有地拡大のこれは使えません。使えませんので、収用法の適用を受けるわけでございます。

ですから、あくまでもこの公有地拡大というのは、都市計画区域でなければこの法律は適用されません。ですから、公共用地を取得する場合は、税の控除を受けるには、この公拡法が使えませんので、下宿の場合は収用法を適用するわけです。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようですので、議案第16号についての質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（嶋田哲純） これより討論を省略して、議案の採決を行います。

議案第10号、平成20年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（嶋田哲純） 全員賛成。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

議案第16号、旭市土地開発公社定款の変更について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（嶋田哲純） 全員賛成。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（嶋田哲純） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（嶋田哲純） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告をしてください。

都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） では、あさひパークゴルフ場の利用状況について報告させていただきます。

委員の皆様がご承知のとおり、パークゴルフ場につきましては、指定管理者制度によりま

して福祉協会に管理・運営をお願いしてございます。

7月1日にオープンしまして、7月6日までを市民への無料体験といたしました。この利用期間の利用者でございますけれども、885人でございます。

通常の営業が7月7日からでございます。7月7日から7月31日までの利用者は1,625人でございます。この内訳でございますけれども、市内の利用者が1,355人、市外が270人でございます。8月1日から8月31日、1か月ですね、これが2,266人で、内訳としまして市内が1,820人、市外が446人でございます。2か月間トータルですと、3,891人となります。

市外の利用者でございますけれども、これは私のほうで想定していたのは、約20%を想定しておりました。割合ですと、2か月の数字で約18.4%でございます。

使用料のほうでございますけれども、7月7日から7月31日までですと、使用料収入が114万800円でございます。8月1日から8月31日までが99万4,850円となります。2か月間のトータルですと、213万5,650円となります。

この期間中における利用促進といたしましては、これは市の主催の市民大会それからパークゴルフ協会主催によります大会、それから市内の小学生の無料体験、それから子ども会の無料体験。市内に子ども会が110ほどございますので、そこにご案内しまして、無料体験をやっていただきました。それから、市外からの大会等がございました。これは浦安市のパークゴルフ協会でございます。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） 商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、商工観光課の所管事業につきまして報告をいたします。

本年の夏季観光におけます観光客、海水浴客等の入り込み状況につきまして、結果がまとまりましたので、報告をさせていただきます。

まず、海水浴場でございますが、今年は例年になく開設期間中、好天にも恵まれて、多くの観光客の入り込みがありました。今年につきましては、矢指、飯岡、海水浴場は2か所あるんですが、7万8,630人ということで、前年より7,948人の増ということになっております。

また、観光イベントでございますが、あさひ砂の彫刻美術展につきましても、これも「TVチャンピオン」のサンドアート選手権と同時に開催をいたしまして実施しました。全体で2万人ということでございまして、このときは天候も不順だったわけですが、2万人というこ

とで、昨年6,000人ですので、かなりの人が来ているということでもあります。

それから、YOU・遊フェスティバルでございますけれども、花火大会、ビーチバレーボール、宝探し等、2日間実施しまして、トータル的には14万人という数字になっております。

また、8月2日にはサマーフェスタ in 矢指ヶ浦ということで、これは矢指の海岸でのイベントでございますが、これにつきましても例年とは違いまして、ハマグリ拾いなども新しいプログラムの中で実施しまして、これにつきましても昨年を上回る5,000人の入り込みがあったという部分でございます。

最後に、8月6日、7日の七夕市民まつりでございますが、こちらにつきましても2日間で12万人という数字になっております。

続きまして、長熊スポーツ公園整備事業について簡単に申し上げます。

本事業につきましては、長熊スポーツ公園として市民の交流の場所として、また釣り利用者が快適に利用できる施設として整備しているわけでございますが、事業費の総額につきましては2億1,800万円という予算でございます。これにつきましては、釣堀のほうを先行して入札をかけましたので、この金額につきましては1億3,020万円ということで、87.8%という入札率でございました。

工期につきましては、7月5日から来年3月4日という部分を予定しております。工事の内容につきましては、土壌改良後の掘削、盛り土等の工事を実施した後に、栈橋の施設替えなどを行う予定でございます。現在のところは土壌改良、掘削等の工事を行っているところでございます。

また、今申し上げましたとおり釣堀のほうを先行して実施しておりますので、この後には、今度は公園の部分の入札も入ってきます。今、都市整備課のほうに設計をお願いしておりますので、10月か11月には入札になるのかなというふうに考えております。

よろしく願いいたします。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

所管事項の報告は途中でありますが、ここで11時25分まで休憩をいたします。

休憩 午前11時16分

再開 午前11時25分

○委員長（嶋田哲純） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き所管事項の報告をお願いいたします。

下水道課長。

○下水道課長（中野博之） 下水道課からは、本年度管渠工事の執行状況とお手元に配布しておりますA4、1枚の合併浄化槽の維持管理費の2点につきましてご報告、ご説明させていただきたいと思っております。

1点目の管渠工事でございますが、本年度につきましては二袋地先の幹線管渠工事及びその周辺2.6ヘクタールの面整備工事等につきまして、管渠建設工事2本を発注したところでございます。

このうち国道袋交差点から袋西交差点までの袋第二汚水幹線ほか管渠工事につきましては、特殊な工法である推進工法でございますので、千葉県下水道公社へ委託したところでございます。

もう1本の面整備管渠工事につきましては、主要地方道の旭小見川線への管渠埋設工事でございます。マツモトキヨシからカワカ南側の仁玉川手前までの区間でございます。

それと、また昨年度管渠工事を行った口の東町・網戸地先の道路舗装復旧工事につきましては、現在、契約の手続きを進めているところでございます。

国・県道車道部での工事につきましては、交通量が多く、交差点付近での工事ということでございますので、交通渋滞を避けるために、夜間工事にて施工することといたしております。歩道部などで比較的渋滞の影響が少ないと考えられる場所につきましては、昼間工事を予定しております。工事に当たっては、交通規制や騒音などでご迷惑をおかけいたしますが、住民の皆様のご理解とご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えてございます。

次に、2点目のお手元にお配りいたしておりますA4、1枚の合併浄化槽の維持管理費についてでございます。

本会議の一般質問におきまして、私のほうで合併浄化槽家庭用5人槽の維持管理費につきまして、年間8万1,000円、1か月にいたしますと7,083円と換算されますというご説明をいたしました。これにつきまして、もう少し内容と内訳をご説明させていただきたいということでございます。

真ん中よりも下のほうに参考と書いてございますけれども、浄化槽法及び環境省関係の浄化槽法施行規則により、浄化槽の使用者は浄化槽を常に良好な状態に保つために、定期的な

保守点検及び定期検査等を行う必要があるということを書いております。

浄化槽の管理者の責務といたしましては何かと申しますと、浄化槽の使用者は、浄化槽法の第10条第1項及び施行規則第6条の2項により、家庭用の5人槽の合併浄化槽の場合は保守点検を年3回行うということになっております。これが上のほうの表の内訳で書いている保守点検2万1,000円という、これでございます。年3回の保守点検費用、これが2万1,000円と。1回に換算すると7,000円と。通常、保守点検とお話があるものが、この2万1,000円に相当するものであろうというふうに考えております。

それから、続きまして浄化槽の清掃、これを年1回行うこととなっております。この清掃費用が表の2段目の2万6,000円ということでございます。

それから、参考の下の括弧で定期検査というふうに書いてございます。浄化槽法第11条の1項により、年1回、指定検査機関の行う水質検査を行わなければならない。これが法定検査、表でいう3項目めの5,000円ということでございます。

それ以外に、1年間この浄化槽のモーター等を運転していかなければならないもので、電気料として1万3,000円、これを合計しまして、維持管理といたしましては6万5,000円、これに発生する汚泥処分料、この汚泥処分費につきまして、年間2万円かかるであろうということで、トータルをいたしまして年間8万5,000円がかかるのではないかとこのふうになっております。

これにつきましては、上のほうに参考として書いてございますけれども、国土交通省が平成17年度に全国的に調べた結果でございます。これにつきましては、下水道及び下水道に類似している施設ということで、国土交通省のみならず、環境省それから農林水産省等もこの数字を基本として使用しているということでございます。

これにつきましては、あくまでも全国的な平均でございますので、地域の差がございます。ですから、この数字がすべてということではございません。それぞれ各地域の差によりまして、これよりも費用がかかる場所もありますでしょうし、これよりも費用がかからない場所もあるのではないかとこのふうを考えております。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

所管事項の報告がございましたら、随時お願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） すみません、報告の前に、先ほどの滑川委員のご質問に対しまし

て、ちょっと自分が何か一けた安いという表現だったもので、安く事業費を言ったというようなことで、すみません、訂正させていただきます。

萬力Ⅱ期地区のハウスにつきましては、先ほど言いました面積、19棟で6万2,015平米でありますけれども、事業費が実は10億2,526万円ということで。何か先ほど1億と表現しちゃったわけで、けたがすみませんでした。

この10億2,526万円、このうちの半分を国庫補助事業で予定をされているということで、訂正をよろしく願いいたします。

すみません、実は何点か農水産関係につきましてご連絡方、委員さん方に時間をいただきたいと思います。

一つ目は、先ほどご質問の中で飼料用米の検討会のお話をしました。実は、9月29日、市内の黄鶴で飼料用米の現地検討というようなことで、国の先生をお呼びしまして、作物研究所のほうから日本で一番多くとれる品種、そういうものについての紹介を国の第一線の研究者から説明をしていただく。それと、畜産農家からの利用方法等につきましての発表をいただく予定になっています。さらに、旭市は農水省が近いもので、農水省からも畜産の室長に来ていただきまして、今、国で考えています平成21年度の予算等につきましての一番新しい情報を国の担当からいただくということで、現在、農水省から3名来ていただく予定で、午後研修を考えております。もしえさ米等について興味のある方は、農水産課のほうへお問い合わせいただければと思います。

それともう一つ、研修ですけれども、実は10月30日に東総耕地の研修ということで、若干旭市ともこれから縁が深くなるかなというニチレイの浦野会長を東総文化会館にお呼びしまして、ご講演をいただく予定になっております。

それと併せまして、今、物が上がっても、いろいろ農産物が高くなかなか売れないという部分があります。そんなことで、やはりブランド化というものも必要かなと。特に我々今回メロンに絞って、市内にタカミメロンというおいしいメロンがあるわけですが、これをもうちょっと高く売りたいなというようなことで、実は一線でやっております夕張メロンからぜひそのブランド化の戦略を学びたいということで、実は2玉200万円を超えて売っているメロンであります。そんなことで、夕張市農協から担当の部長に来ていただきまして、ひそかに夕張メロンの販売戦略をこの旭市で発表をしていただくということで考えております。これが10月30日でございます。

もう1点、実は市長の政務報告でご説明させていただきましたけれども、こういうチラシ

を今作っておりますけれども、10月5日に飯岡漁港で水産の朝市を9時から開催をさせていただき予定で今考えております。9時から売り切った時点で終わりということです。そんなことで、朝市ですので、各委員さん方にはご案内をちょっと差し上げられませんが、5日の日曜日に9時から漁港で水産それと農産物も出店をしていただく予定になっております。そういう朝市を開催予定ということで。

このチラシは事前に新聞折り込みで入れる予定で考えております。その中に、実は10月19日にいきいき旭・産業まつり、あるいは11月9日のふるさとまつり・ひかた、11月23日の海上産業まつり、これもチラシの中に入れる予定です。朝市と含めまして、四つの祭りに来ていただいた方に、ひとつスタンプラリー的なものを作って、そういう方々に何か景品を差し上げようというようなことで、集客力を高めようということで計画をしております。

いろいろな秋の祭り等につきましては、産業まつり的なものにつきましては、委員さん方にご案内をさせていただきますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） それでは、所管事項の報告でございますが、何かお聞きしたいことがございましたらお願いいたします。

平野委員。

○委員（平野忠作） ちょっと都市整備課の課長に聞きたいんですけども、パークゴルフ場の利用状況の中で、7月が1,625人、8月が2,266人ということで、内訳としまして、土日の料金と月決めで安くやる方がございますよね。月決めの利用者ですね。このような内訳は、これはどのようになっていますか。何か土日の利用がちょっと少ないのかということがよく言われていますもので、その辺、分かるだけで結構です。それが分かれば、よろしくお願ひします。

○委員長（嶋田哲純） 平野委員の質疑に対し答弁を求めます。

都市整備課長。

○都市整備課長（島田和幸） 委員おっしゃいました月決め会員ですよ。当然これは1か月2,500円をご利用なさって、土日は使えないですよ。今までですと、7月、8月でこの3,891人の利用者の中で、月決め会員が1,594人です。パーセンテージでいいますと、40.9%

になります。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

陳情の審査

○委員長（嶋田哲純） 次に、陳情2件の審査を行います。

商工観光課、農水産課以外は退席してください。

しばらく休憩いたします。そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前11時38分

再開 午前11時39分

○委員長（嶋田哲純） 休憩前に引き続き会議を開きます。

去る9月5日の本会議におきまして、本委員会に付託されました陳情は、陳情第5号、自主共済制度の保険業法適用見直しを求める陳情と陳情第6号、燃料、肥料、飼料、農業資材等の価格高騰に対する緊急対策を求める陳情の2件であります。

それでは、陳情第5号について審査に入ります。

初めに、商工観光課より参考意見がございましたら、お願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、自主共済制度の保険業法適用見直しを求める陳情について、消費者行政の担当課として意見を申し上げます。

この陳情で見直しを求めているものにつきましては、平成17年に成立しました保険業法の一部を改正する法律でございます。この保険業法の一部改正につきましては、特定の者を相手方として保険の引き受けを行う共済事業につきまして、契約者である消費者保護の観点から、保険業法の適用範囲の見直しを行ったと。原則として、保険業法の契約者保護という部

分の中での内容でございます。要は、根拠法のない共済についてはこれからは駄目ですよと。あくまでも根拠法のある共済にするという部分の改正ということになります。

そういうことで、旭市内での根拠法のない共済などの事業については、現在、把握はしておりません。ないんではないかなというふうに思いますし、消費者保護の観点から改正された法律でありますけれども、旭市の消費者相談の窓口の中で、こういった苦情や相談は今のところございません。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

それでは、審査をお願いいたします。

平野委員。

○委員（平野 浩） この陳情趣旨の中ですけれども、消費者に被害をもたらしたとありますけれども、実際の被害というのはどういうものがあつたのでしょうか。その辺分かればお願いします。

○委員長（嶋田哲純） 平野浩委員の質疑に対しまして答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） あくまでも今回の法律の改正は消費者保護という部分でありまして、これはマルチ商法という部分の中で、商品それからサービスを買った人がその販売組織の会員になるという部分の中で、だまされているという部分はかなりあるという部分。話題になった部分については、1996年のオレンジ共済組合という部分が消費者をだました中で会員を獲得したという部分があります。こういった部分については、あくまでも一般にいう保険業法の適用を受けている部分においてはそういうことはないわけですけれども、そうでない部分については、一般消費者がそこに参加することによって、だまされる者が多いという中で、消費者保護という部分の中で、きちんと法で定めた中での共済にするという部分があります。

具体的な任意の団体の共済については、今言いました根拠法のない共済がずらっとここに、陳情の中にございますけれども、日本勤労者山岳連盟とか知的障害者と、こういう部分については根拠法のない共済という部分であります。

それならば、根拠法がある共済というのはどんな例なのかという部分については、JA共済とか、こくみん共済とか、そういう部分が根拠法のある一般的な共済ということになります。

○委員長（嶋田哲純） ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようですので、陳情第5号の審査を終わります。

続いて、陳情第6号について審査に入ります。

初めに、農水産課より参考意見がございましたら、お願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それでは、燃料あるいは肥料、飼料、農業資材の高騰の部分につきまして、若干の情勢の報告ということで時間をいただきたいと思っております。

今、非常に農業資材、いろいろなものが高くなっているところであります。特に燃料につきましては、ご承知のように農家が使いますA重油、昨日JA等に問い合わせしました中では、6月の初めでリッター当たり108円であったと。これが7月の初めについては120円、8月に入りましたところが、若干落ちてきて113円、昨日現在では111円というようなことで、上がってきたものが、今、若干下がってきているという。ただ、以前から比べると相当の高い値段であるというようなことで、今、市内の農業経営者の中では安いエネルギーというようなことで、本会議でも申し上げましたヒートポンプに変わりたいという部分あるいは省エネ型の暖房機に変えたいと、そういう方々もいらっしゃいます。

ただ、特にそういうヒートポンプに変えたいという方から、補助金の要望と併せまして、実は補助金よりも固定資産税の減免をしていただきたいと。いろいろな高い施設を入れると、そこに償却資産というようなことで、高いというのは表現はあれですけれども、そこに税の負担が多くなるわけです。先進的な技術を入れたというようなことで、できれば……。実は、家畜ふん尿処理施設なんかがあるわけですけれども、国に制度として固定資産税の減免制度、そういう先進的な技術というようなことで入れていただきたいなという声は農業者から聞いております。

ただ、農協から聞いた中では、市内では油が高くなったからといって、キュウリをいろいろな作物に転換しようというのはあまりないと。むしろ首都圏に近いという立地条件を生かして、我々は運送料が安いんだというようなことで、これをいい機会としてとらえて、他の産地に負けないような努力をしていきたいというふうに聞いております。

それと、肥料、肥やしの部分であります。これにつきましては、ご案内のように、実は肥料の成分であります窒素、リン酸、カリ、すべての原料が史上最高値になっておるということで、これは世界中の肥料の値段が上がっているということでございます。リン酸系統につつま

しては、前年対比にしまして3倍、あるいはカリについてはやはり3倍、窒素成分については2倍というようなことで高くなってきております。これも同じく農協に確認しましたところが、シアン555という肥料につきましては、2,135円から今年は3,480円というようなことで、もう約5割値上がっているよと。あるいは、化成のオール8については1,145円から1,835円、もう6割近く値上がっていると。

この肥料については、もう世界的な値上がりであります。これについては当分というか、なかなか下がる要素がないのかなというような。ただ、市内の中では、代替というわけではありませんけれども、家畜たい肥に転換をして、畜産農家に聞きますと、今、結構たい肥が相当はけているということで聞いております。農水産課のほうでも適正なたい肥についてこれから指導してまいりたいというふうに考えております。

それと、家畜のえさでありますけれども、これも実はトウモロコシの値段、以前はキロ46円という値段で、先ほどのえさ米をキロ50円で買っても、まあまあこれはいけるかなという、そういう春先であったわけですがけれども、現在はトウモロコシが下がって、キロ38円くらいということで。そのえさ米のキロ50円というのは、ちょっとどうなのかなとありますけれども、約束のものもありますので、間違いなくキロ50円で畜産農家は買えると。ただ、来年もトウモロコシが下がっていくと、やはりえさ米についても若干下がらざるを得ないのかな。えさについてはそういう状況で、若干トウモロコシについては高値から下がってきているということでございます。

それと、国の支援の中で、我々もいろいろな機会、国も漁業者と同じように農業者にも支援というようなことでは言っているわけですがけれども、本会議の中で言いました化学肥料と施設園芸用の燃油の使用量をそれぞれ2割以上減らした農業者グループ、これについては、実は当初、肥料増加分の2分の1をこれからの補正予算で国が約300億円用意をするということでありましたけれども、本日の新聞報道等によりますと、国のほうではこの2分の1の支援じゃなくて、7割の支援ということで。2分の1では、ちょっと金額が少ないというようなことで、7割の補てんを目指したいというようなことで、何か案として今出ているそうでございます。補正の予算につきましても、300億円から500億円に増額をしてということで考えているということで、情報として伝わってきております。さらに、国は土壌診断あるいはコスト低減技術の導入事業、こういうものにつきましても必要な予算措置をこれからとっていくというようなことで、情報としていただいております。

いろいろな農業資材の高騰等につきましても情勢は、以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

それでは、審査をお願いいたします。

何かございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようですので、陳情第6号の審査を終わります。

しばらく休憩いたします。

執行部は退席してください。大変ご苦勞さまでした。

休憩 午前11時50分

再開 午前11時58分

○委員長（嶋田哲純） 休憩前に引き続き会議を開きます。

何かこの件でご意見のある方、お願いいたします。

滑川委員。

○委員（滑川公英） 6号なんですけれども、重油燃料、この案件につきましては、私が一般質問でお伺いしましたところ、行政としてはあまりにも使用量が多くてとれないというような答弁をいただきましたんで、ちょっと無理ではないのでしょうか。

それで、2番目については、既にアメリカも日本の政府も、原油や穀物への投機をということだいで圧縮しているんで、要するに投機資金が逃げて、今、原油も90ドル台に下がっているし、トウモロコシも小麦もだいで下がっているんで、取りあえずは行政のほうでは採用しないというのに、これほどこへ……。先は内閣総理大臣になっておりますけれども、私は今のところ必要はないと思います。

○委員長（嶋田哲純） どうもありがとうございます。

ほかにごございませんか。

（発言する人なし）

陳情の採決

○委員長（嶋田哲純） 次に、討論を省略して採決を行います。

陳情第5号、自主共済制度の保険業法適用見直しを求める陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（嶋田哲純） 賛成者なし。

改めて採決いたします。

不採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（嶋田哲純） 全員賛成。

よって、本陳情は不採択と決しました。

陳情第6号、燃料、肥料、飼料、農業資材等の価格高騰に対する緊急対策を求める陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（嶋田哲純） 賛成者なし。

改めて採決いたします。

不採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（嶋田哲純） 全員賛成。

よって、本陳情は不採択と決しました。

以上で本委員会に付託されました陳情の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（嶋田哲純） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長（嶋田哲純） 以上をもちまして、審査は全部終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変どうもご苦労さまでございました。

閉会 午後 零時 2分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 嶋田哲純